

これだけは伝えたい！腎癌手術のコツ

企画にあたって

ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術が2016年4月に保険収載されました。ロボット支援手術としては、前立腺全摘除術に次いで2つ目の保険適用となりますが、いずれも泌尿器科の手術であることは特筆すべき点でしょう。現在の医療技術の進歩を象徴する手術を担う診療科として、泌尿器科のプレゼンスがますます高まっていくものと考えています。

そこで、この時期に合わせて腎癌手術を特集いたしました。ロボット支援手術だけでなく、その背後に潜む深遠な腎癌手術の世界をわれわれは認識しなければなりません。腎癌手術といえば、ほんの20年前までは開腹で行う根治的腎摘除術のみでした。この多様化し、複雑化する腎癌手術を現状に合わせてまとめてみました。

手術は段階的に身につけていくものですから、いきなりロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を行うことは例外的です。開放手術での症例を重ねて腹腔鏡下手術あるいはロボット支援下手術と段階を踏むはずですが、昨今指摘されているのは、開放手術の減少です。若い先生をどう教育していくかという問題と重なり、少ない経験でより濃密に学んでいくことが必要とされています。

本特集ではエキスパートの先生方に、豊富な経験に裏づけられたコツを惜しみなく披露していただきました。コツとは何でしょうか？ 私は行動を効率よく成功させるためのエッセンスであると考えています。いろんな局面でコツは存在します。漠然と思っていたことを言葉で表現できればそれはコツとなります。コツとして表現できれば他人に伝授できますし、共感が得られればコツの正しさを確信できます。

若い先生方はぜひ本特集を手にとり、効率的に手術を学んでいただけますと幸いです。また、指導医の先生方にとっても新たな発見があると思います。自分のコツと同じであったとしたら、「自分のコツは世間に通じる」と喜んでいただければありがたいです。手術前後の座右の書としてご活用いただけることを願っています。

慶應義塾大学医学部
泌尿器科学教室

大家 基嗣